

久留米シテイプラザ  
第七回 喜多流「久留米座」能

# 能小鍛治

狩野祐一

舞囃子 安宅

狩野了一

◆ 令和5年1月28日(土)

午後3時開演 (午後2時30分開場)

◆ 久留米シテイプラザ「久留米座」

福岡県久留米市六ツ門町8-1

◆ 入場料 / 指定席 ¥5,000 (当日¥6,000) 自由席 ¥4,000 (当日¥4,500)

◆ 問い合わせ / 三潞文化協会(喜田)TEL 0942-64-4541 / 携帯 090-8298-9987  
喜秀会事務局(狩野)TEL 096-325-6686 / FAX 096-325-6690

主催 久留米座演能実行委員会

共催 久留米連合文化会・久留米喜秀会

後援 久留米市・久留米市教育委員会・(公財)福岡県教育文化奨学財団・三潞文化協会・福岡県喜多流教授教士会・久留米喜多会  
協力 桐光会・喜秀会

# 番組

〔解説〕 佐々木多門

舞囃子

## 安宅

狩野 了一

大鼓 白坂 信行  
小鼓 古田寛二郎

笛 浦

政徳

能

後シテ(稻荷明神) 狩野 祐一  
前シテ(童子)

## 小鍛冶

ワキ(宗近) 岡 充  
ワキ連(橋道成) 原 陸  
アイ(能力) 上杉 啓太

大鼓 白坂 信行  
小鼓 古田寛二郎  
太鼓 田中 達  
笛 浦 政徳

後見 高林 呻二  
狩野 了一

地謡 井上 勝晴  
北原 浩吉  
石橋 荒鷲  
向井 昇  
山本 芳幸  
佐々木多門  
内田 成信  
中村 邦生  
粟谷 充雄

終了予定 午後四時半頃

※上演中のビデオ撮影・録音・写真撮影は固くお断りいたします。携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。その他の音のなる機器のご使用はお控え下さいませ。

### 小鍛冶 あらすじ

夢のお告げを受けた一条天皇は、小鍛冶宗近に剣を打たせよとの旨を下すため、勅使として橋道成を送る。しかし、宗近は自分と同様の腕前の相槌を打つものがないために辞退しようとするが、聞き入れて貰えず断ることが出来ない。困った宗近は、氏神の稻荷明神に神頼みに出掛けようとすると思慮な少年が現れる。少年はすでに宣旨のことを知っていて、剣の威徳を称える中国の故事や日本武尊の草薙剣の物語などを語る。そして剣を打つときは相槌を勤めると言い残し稲荷山の方へ消えてゆく。〔中入〕宗近は身支度を整え、七五三縄を張った鍛冶壇で祝詞を唱えていると、稻荷明神が現れる。明神は相槌を務め、宗近と共に剣を打ちあげ、打ち上がった剣の表に宗近は「小鍛冶宗近」裏には稻荷明神が「小狐」と銘を入れ、勅使に捧げる。そして稻荷明神の化身は雲に飛び乗り稲荷山に帰っていったのであった。

一曲の展開が早く、非常に変化に富み、前半、後半ともに見どころの多い人気の曲。前半では宗近の前に現れた不思議な少年が、名剣の靈験を語るどころ、特に火に囲まれた日本武尊が、草薙の剣を抜いて草をなぎ払い、炎を敵に返して退ける名場面の語りと動きの変化が面白く、後半は相槌を勤める明神と宗近が剣を鍛えるクライマックスが見どころ。きびきびした動きと爽快な語は見る人を飽きさせず、演者の技の切れや語の力を素直に楽しめる曲で、その娯楽性の高さから、歌舞伎や文楽にも採り入れられている。

### 安宅 あらすじ

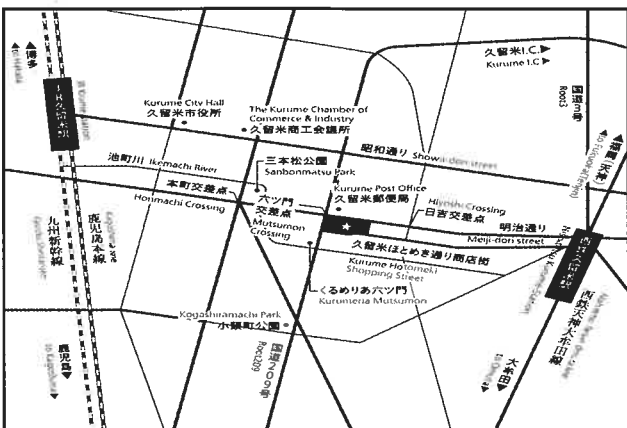
源義経は、兄である頼朝と不仲となり追われる身となる。弁慶をはじめとした腹心の家臣とともに山伏の一行に身を変え、藤原秀衡を頼るべく奥州平泉を目指す。加賀国安宅の関を通りかかると、関守の富樫の某に止められる。弁慶は東大寺再建の寄付を募る山伏の一行だと偽るが、不審に思った富樫が、「東大寺の勸進聖なら、勸進帳をもっては来なはず」と迫ると、弁慶は間に合わせの巻物を、あたかも本物の勸進帳のように朗々と読み上げた。その気遣いにより富樫は通行を許すが、強力に変装した義経を咎める。弁慶がとつさに「お前のために疑われた」と義経を責め、金剛杖で打ち据え、難を逃れる。関を通った一行の前に、富樫が非礼を詫い、酒宴を開く。弁慶は、富樫の策略を疑い、座興に延年の舞を舞い、心を許さずに暇を告げ、一向は陸奥へ落ち延びてゆくのであった。

### 舞囃子とは

能の一曲の中のシテの舞どころを抜き出して、装束ではなく紋付袴(あるいは袴)で舞う上演形式。

安宅では酒宴にて弁慶が舞い、陸奥へと落ち延びていくシーンが演じられる。

### 【会場案内図】



〒830-0031  
福岡県久留米市六ツ門町8-11  
TEL 0942-363000